

PRESS RELEASE

報道関係各位

2019/05/14

(株) キョードーメディアス

トニー賞受賞の気鋭の演出家、ダイアン・パウルスが来日。 ブロードウェイミュージカル「ピピン」日本語版の稽古場公開！



ブロードウェイミュージカル『ピピン』の日本語版が、2019年6月、東急シアターオーブにて開幕する。『ピピン』は、鬼才ボブ・フォッシー（ミュージカル『シカゴ』、映画版『キャバレー』）の演出・振付で1972年に初演され、トニー賞5冠に輝いた名作だ。現在もブロードウェイでロングラン公演中の『ウィキッド』を作曲したことで知られる、スティーヴン・シュワルツが作詞・作曲したミュージカルナンバーは、マイケル・ジャクソン（「Morning Glow」）、ジャクソン5（「Corner of the Sky」）らにカバーされるなど、ミュージカルの枠組みを超え、多大な反響を得た。

2013年には、気鋭の演出家、ダイアン・パウルスが演出を一新したリバイバル版が上演。サーカスを大胆に取り入れ、スペクタクルに生まれ変わったリバイバル版は、同年のトニー賞で4部門を受賞している。今回の日本上演では、同作でトニー賞最優秀演出家賞を受賞したパウルスが自ら演出を担当する。

本稽古の開始にあたり、ゴールデンウィーク明けにパウルスが来日。報道陣に稽古場が公開された。公開されたのは、パウルスが参加して2日目の稽古だ。舞台を想定した稽古スペースはパネルで囲まれており、その中央には、主人公・ピピンを演じる城田優と、本作がミュージカル初挑戦となる、リーディングプレイヤー役のクリスタル・ケイが立っていた。

『ピピン』は、若き王子・ピピンが人生の目的を求め、「特別な何か（=Extraordinary）」を探す人生の旅をユーモラスに描いた作品だ。リーディングプレイヤーは、ピピンを導き、その物語を観客に伝える役割を担う。



この日行われていたのは、自我に目覚めたピピンが戦争に空しさを感じ、父である王・チャールズ（今井清隆）を倒そうと反乱をおこそうと民衆を奮い立たせる場面だ。「日本語は赤ちゃんレベル（笑）」というパウルスだが、日本語のセリフをスタッフに確認し、そのシーンやセリフの意味するところを丁寧に伝えていた。「ニュースで見るとような暴徒をイメージして」と、時には立ち上がり、出演者たちの円に加わって指導。「チャールズ倒せ！」という出演者たちの声は、次第に熱を帯びていった。

PRESS RELEASE

この日の稽古の最後には、オープニングナンバー「Magic To Do」が披露された。クリスタル演じるリーディングプレイヤーが中心となり、出演者全員で観客をマジカルな物語に誘う楽曲だ。キャストたちが立ち位置につくと、少し空気がぴりっとした。まだ稽古2日目、それほど数はこなしていないはずだ。パウルスが、「準備は万端？」と声をかけると、チャールズ役の今井が、「万端なはずないよ、まだほとんどやってないんだから（笑）」と、空気を和ませる。この曲のなかで、キャストたちが口ぐちに、観客に声をかける場面があるのだが、パウルスからは「(観客のなかから)一人を選んで、自分の言葉で話して」「上気せずに、クールに話しかけて」と指示が飛んでいた。



稽古後に行われた取材で、城田の印象を問われたパウルスは、「インクレディブル！ 彼はピピンという役柄をしっかりつかんでいます。さまざまなことにトライすることにも柔軟です」とコメント。クリスタルについては、「美しく、強くスターの素質を持っている人。ミュージカル初挑戦と聞いて驚いています。いろいろなことを吸収することに貪欲で、いま自分ができる最高のパフォーマンスをしようと、毎日、大きな変化を遂げています」と評した。

ベトナム戦争中に上演された初演版を、サーカスに着想を得てアレンジしたリバイバル版演出に関しては、「もともとサーカスという形態に興味がありました。街にテントが設営され、その中に入ってサーカスを楽しむという高揚感を含め、サーカスの形態を劇場に持っていきたいと考えました。物語の冒頭で、リーディングプレイヤーが『Join us!』と歌いますが、私はリーディングプレイヤーに、テントの外で、お客様を呼び込む役割を担ってもらおうと考えたのです」。本作に限らず、リバイバル演出する際には、「上演当時にその作品が何を意味していたかを考えます。でも“博物館”のような作品にするのではなく、初演時のインパクトを、今の時代の観客に伝えるにはどうするか」を考えるようにしているという。なお、パウルスが、ブロードウェイで、ミュージカル『1776』のリバイバル版の演出を行うことがつい最近、アナウンスされた。

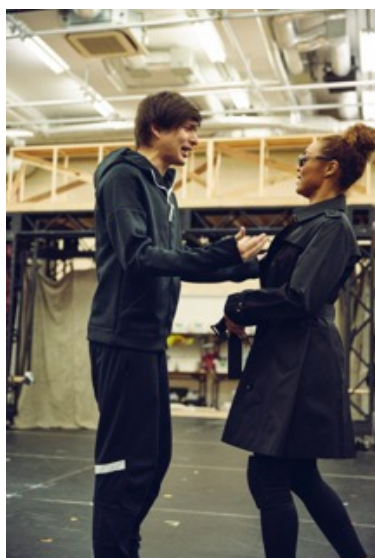
また、アメリカ人の父と日本人の母を持つ彼女にとって、母の母国である日本で、日本語版の演出をするのは、非常に感慨深いことだとも話してくれた。

「1928年生まれの母は、芸術が大好きで、行きたい道に進むよう、私の背中を押してくれました。宝塚歌劇の大ファンでもあったんですよ。母は1995年に他界しましたが、彼女が生きていたら今回の上演をとっても喜んでくれたはずですよ。

来日する前は、(今回の『ピピン』日本語版が)どんな作品になるのか想像もつかなかったのですが、ここに来て、最高級レベルのポテンシャルを持つキャストに圧倒されています。毎日、アメリカに電話をして、これは観るべき作品よ、今までで最高の『ピピン』になりそうよと話しているんですよ。箱の中の完成品をお見せするのではなく、客席にこの物語を広げ、日本のお客様の心を動かすような、お客様とつながることができる作品を作るために、稽古で、全身全霊で作品の世界に飛びこむキャストたちと、一語一語、検証しながら着地点を見つけているところです。楽しみにしてください」

ボブ・フォッシーのスタイルを踏襲したダンスとサーカスアクロバット、そして、人生の意味を探し求める、若き王子・ピピンの物語を融合させ、新たな『ピピン』を生み出したパウルスが手がける、日本語版の『ピピン』。6月、私たちは、どんな魔法を観ることができるのだろうか。

PRESS RELEASE



ブロードウェイミュージカル「ピピン」
(英語タイトル: The Broadway Musical PIPPIN)

【作詞・作曲】 スティーヴン・シュワルツ

【脚本】 ロジャー・O・ハーソン

【演出】 ダイアン・パウルス

【振付】 チェット・ウォーカー

【サーカス・クリエーション】 ジブシー・シュナイダー

【出演】 城田優 Crystal Kay 今井清隆 霧矢大夢 宮澤エマ 岡田亮輔 中尾ミエ/前田美波里 (Wキャスト)
神谷直樹 坂元宏旬 田極翼 茶谷健太 常住富大
石井亜早実 永石千尋 妃白ゆあ 伯鞆麗名 長谷川愛実 増井紬 ほか

PRESS RELEASE

【東京】

日程：2019年6月10日(月)～6月30日(日) (全25回)

会場：東急シアターオーブ(渋谷ヒカリエ11階)

料金：P席15,000円 S席13,000円、A席11,000円、B席9,000円(税込)

*P席は1列目～10列目以内の座席保証&オフィシャルグッズ付(非売品)

チケット一般発売：3月2日(土) AM10:00

お問い合わせ：キョードー東京 0570-550-799 (平日11:00～18:00 土日祝10:00～18:00)

【名古屋】

日程：2019年7月6日(土)、7月7日(日) (全2回)

会場：愛知県芸術劇場 大ホール

料金：S席13,500円、A席10,500円、B席7,500円(税込)

チケット一般発売：3月2日(土) AM10:00

お問い合わせ：キョードー東海 052-972-7466 (10:00～19:00 日・祝休み)

【大阪】

日程：2019年7月12日(金)～7月15日(月・祝) (全6回)

会場：オリックス劇場

料金：<平日> S席12,500円 A席8,500円 B席6,500円(税込)

<土日祝> S席13,500円 A席9,500円 B席7,500円(税込)

チケット一般発売：3月3日(日) AM10:00

お問い合わせ：キョードーインフォメーション 0570-200-888 (10:00～18:00)

【静岡】

日程：2019年7月20日(土)、7月21日(日) (全2回)

会場：静岡市清水文化会館マリナート 大ホール

料金：S席13,000円 A席10,000円 B席8,500円(税込)

チケット一般発売：4月20日(土) AM10:00

お問い合わせ：テレビ静岡事業部：054-261-7011 (平日9:30～17:30)

※未就学児のご入場はお断りします。

企画・制作：フジテレビジョン/キョードー東京/ワタナベエンターテインメント

公式サイト <http://www.pippin2019.jp>